

岩瀬湯本温泉の起こり

今から約一二〇〇年前の弘仁九年（八一八年）、
第五二代嵯峨天皇が病に倒れてしまいました。
長引く病を心配した家来たちが、八幡の神に祈祷を
お願いしたところ、「陸奥の国 岩瀬の郡の西、
二岐山の麓を流れる鶴沼川のあたりに熱湯が沸き
出ている。その湯あかをとって薬とすれば、天皇の
病は治るであろう」というお告げをいただきました。
そこで、家来の星三兄弟がお告げの通りにこの地に
足を運び、「湯あか」を採り、京へ持ち帰ると、
たちまち天皇の病は治りました。それに感謝した
天皇は、弘法大師自ら彫った像のひとつを奉った
温泉八幡宮（ゆぜんはちまんぐう）をこの地に建立し
先の三兄弟をここに住まわせ、いつまでもこの温泉
を守ることにしました。
それが、現在に至るまで枯れることなく湧き出て
いる岩瀬湯本温泉の始まりと言われています。

温泉情報

源泉温度：49 度 湧出量：70 ㍓/分 湯舟での温度：42 度

当宿のお湯は、自然湧出の源泉からの掛け流しです。

季節や自然状況などによって、湯量や温度が若干変動する場合がございます。

成分： ナトリウム－カルシウム－塩化物泉

効能： 胃腸病、糖尿病、切り傷、火傷、神経痛

湯ばな：温泉の起こりに出てきた「湯あか」とは、現在で言う「湯ばな」のことです。
今でも、お湯と供に湯船に流れ入ってきている茶色のもので、これが温泉の
の成分が凝縮されたものです。

特徴： メタケイ酸が豊富 ➡ 肌の新陳代謝を促し、たまご肌へ導く「美肌の湯」
塩化物泉 ➡ 保温効果があり、湯冷めしにくく、殺菌作用もある。
ナトリウムイオン ➡ 角質化した肌を柔らかくしたり、女性に優しい効能。
カルシウムイオン ➡ かゆみを押さえるなどの肌への効果が抜群。
低張泉 ➡ 水分が細胞に入りやすく、長湯で指がしわしわに。